

# むきぼんだ花だよ 3月



2015. 3. 7

「雲の影朧に映し美保の海」

もと



アオモジ (雌株)



アオモジ (雄株)

「青文字」、3月の始めに葉に先立って淡黄色の小さな花を多くつける。妻木晩田は山陰では数少ない群生地であり、遺跡に春を告げる花である。材はレモンの香りがする。

アオモジの分布は、九州(宮崎・大分は無し)、山口、岡山(1本のみ)、島根(安来)、鳥取(陰田、妻木晩田、琴浦)鳥取は日本海側の北限、四国は無し、太平洋側は伊豆まで。狸がアオモジの種子を食べるので広く分布するのではないかと(島大川口先生)



コブシ

「辛夷」、秋には幼児のにぎりこぶしに似た形の果実を結ぶことからこの名前が生れたという。実が熟ると赤い種子が見える。花が咲く頃、各地で田仕事が始まる。花の下に葉が一個付くのが特徴。タムシバには葉がない。つぼみは漢方で蓄膿症や鼻炎などの処方に使われる。



クロモジ (雄株)

「黒文字」、4月頃、新葉とともに淡黄緑色の小花が咲く。材は芳香があり、和菓子に使う楊子の材料である。枝や葉から香料の原料となるクロモジ油が得られるし、クロモジ茶もできる。雌雄異株。



ツルグミ



シナアブラギリ

「支那油桐」、アブラギリとよく似ているが、シナアブラギリは花や果実が大きい。種子から桐油が取れる。紙にしみこませて和傘や提灯用の油紙に使用された(淀江の和傘の紙に使用)。漆喰に桐油を混ぜて、漆喰の防水効果を高めた。最近、インドネシアなどの国でアブラギリを栽培して、桐油からバイオエタノールを造る取り組みをしている。



ナガバモミジイチゴ

「長葉紅葉苺」、短い花枝に白色の花をつける。果実は球形で黄色に熟す。大変美味しく、ジャムなどになる。名の由来は、モミジに似た葉の先が長くなることからつけられた。



アカメガシワ

「赤芽櫛」、新芽が紅赤色でアカメ、カシワは炊ぐ葉の意味で、古代人が食べ物をこの葉に載せたことに由来している。葉が大きいので、古来食物を盛る葉として代表的なものである。洞の原地区の遺跡から種が出てきた。雌雄異株、新芽は赤くて美しい、赤く見えるのは小さな毛で、爪で取り除くと緑の若葉が見える。(若葉を保護するためか)



イワガラミ

「岩絡み」、つるから気根を出して樹や岩によじのぼるためイワガラミの名がついた。よく似ているツルアジサイ(ガク片が4枚)と混同されるが、イワガラミは花のガク片が1枚。



クロキ



オオバヤシャブシ

「大葉夜叉五倍子」「大葉夜叉附子」。五倍子とはヌルデの木の若葉に、ヌルデシロアブラムシが寄生して卵を産み付けで生じた虫こぶのこと。大きさが五倍に殖えることから五倍子と名がついた。多くのタンニンを含むため草木染に使用される。オオバヤシャブシも多くのタンニンを含むため五倍子の名がつけられた。(染織史家:吉岡先生)葉は互生し、雌花は雄花序より上につく。小さな亀の子たわしが雌花である。黒褐色に染めることが出来る。御歯黒にも使用された。



ネジキ

「搦木」、幹がねじれていることからネジキの名がついた。



雌雄異株。雄株は多くの花をつけ、おしべは花粉を付けているため花が黄色に見える。雌株の花は少なく、めしべの先端は白く伸びているので白っぽく見える。(写真参照)

地元に住むメンバーは、この季節、麓から山に登る坂道でアオモジに気付くことがあるそうです。昔から通る道にもかかわらず、ここ数年に気付くことが多いそうです。アオモジはこの地域でもその分布が拡大しているのでしょう。道から少し奥まったところの幼木は、道からは見えません。

成育し、りっぱな若木となったアオモジは、枝いっぱい花を咲かせます。道行く人は、この時になって始めてそこにアオモジが成育していたことを知り、その花の見事さに春の訪れを感じていたのです。

上の写真は、妻木山地区の堅穴住居横の林です。胸高直径が10cmに満たないので、まだ若いアオモジですが、その高さは驚くほどですし、成育本数も多いです。島根大学の調査では、雄が近くにある雌の花は成熟する割合が高く、多くの種子が散布されることが確認されています。

このアオモジは個体数が多いので、雌雄のバランスも良いことでしょう。史跡公園を代表するアオモジの林になることでしょう。



左の写真は、洞ノ原入り口の散策道横の写真です。今は、蔦に覆われ、一部の枝に僅かに花を咲かせているアオモジがあります。胸高直径が20cmを越す大木です。歩く会の発足当時、この木は史跡公園の春を演出するシンボルでした。春の開花の季節にここを訪れた観光客は、弥生の遺構や遺物よりも、まずこのアオモジに心を晴ればれさせたことでしょう。数年前から元気がなくなり当時を知る者にとっては少し寂しく感じます。アオモジは先駆性が強く成長が早い反面、寿命が短いとも言われます。史跡公園で注目を集める役目を終え、順調な整備の進捗を確認して次世代へとバトンタッチしたのかもかもしれません。

### ★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」